

平成19年度 指定都市小学校長会研究協議会福岡大会

学校と家庭との連携で、家庭における学習習慣の確立を図る試み

～『家庭学習ノート仙台』の活用を通して～

仙台市小学校長会指定都市問題研究部

I はじめに

仙台市では、平成19年度「家族と一緒に家庭学習に取り組むことを通して、基礎・基本の確実な定着と家庭での学習習慣の確立を図る」ため、『家庭学習ノート仙台』を作成した。その作成の経過と、実際に使用しての成果と課題を紹介する。

II 『家庭学習ノート仙台』の概要

1 作成の経緯

小学校5年生を対象に、4県（宮城、岩手、和歌山、福岡）合同で行った学習状況調査において、本県では学力検査と同時に学習意識調査も実施した。その結果、宿題以外には家庭学習にあまり取り組んでいないという児童の実態が明らかになった。

この結果を受けて、仙台市教育委員会では、家庭での学習習慣の形成に学校が積極的にかかわっていくための試みとして、『家庭学習ノート仙台』を作成した。

2 作成の目的

- (1) 児童一人一人に、基礎的・基本的な学習内容を確実に身に付けさせる。
- (2) 学校と家庭との連携を通して、家庭における児童の学習習慣の確立を図る。

3 『家庭学習ノート仙台』の内容

A4版 上・下巻構成、各40ページ

(1) 小学校3年生

『家庭学習ノート仙台 いっしょに算数』

3年生は、学習内容が多くなり、わり算など算数に対する苦手意識が芽生える時期である。そこで、反復練習を通して基礎・基本が確実に定着できるような内容で構成されている。

(2) 小学校5年生

『家庭学習ノート仙台 いっしょに国語』

高学年は、中学校の学習へ円滑に移行させていくことが求められる。そこで、基礎的・

基本的内容を繰り返し学習し、確実に言語能力を育てるような内容で構成されている。

4 『家庭学習ノート仙台』の特色

- (1) 教科書の年間指導計画に沿って、該当学年の学習内容を中心に構成してある。
- (2) 不得手な児童にも取り組める内容であるとともに、発展的内容も含めている。
- (3) 一人でも学習できるよう、学び方のポイントやイラストなどを多く取り入れている。
(キャラクター原画は、市立小・中学校の児童・生徒が作成)
- (4) 学習習慣の定着を図るという観点から、児童による自己評価欄、教師や保護者のサイン欄などを設けている。
- (5) 保護者向けにねらいや利用法を解説し、家族で一緒に取り組むように促す構成になっている。

5 作成委員会

市立小学校の教員を中心に、中学校教員やPTAの代表も加え、小中連携の観点や保護者としての立場からの意見も参考にして作成した。

Ⅲ 学校の取組の実際

(仙台市立八本松小学校での実践)

- 1 該当学年担任との使用法の確認
 - (1) 年間を通して継続的に使い、よりよい学習習慣を身に付けさせる。
 - (2) ノートの提出は単元終了時を目安とし、学級で提出日を決めて提出させる。
 - (3) 漢字や計算練習のために、別にノートを1冊用意させる。
 - (4) 「音読のすすめ」を活用し、1日1回音読をする習慣を身に付けさせる。
 - (5) 担任や保護者から励ましの言葉を書き添え、児童に達成感を味わわせる。
- 2 児童の反応から(アンケート調査の結果)

家の人に見てもらっているという回答は全体の約9割であった。その内「時々」を含め、家の人と一緒にやっていると回答した児童は、全体の7割弱であった。

難易度についての問いには、約8割の児童が「難しいときもあれば簡単なときもある」と答えている。また、難しい問題については、「説明を読んで一人で解決している」のが3割強で、6割以上の児童は家の人に教えてもらって解決している。従来のドリルのように、ただ答えを出すというのと違い、「学習の方法を学ばせる」という構成が児童に難しいという印象を与えていると思われるが、その解決のために、保護者の助言を得ているのであれば、本来のねらいに沿った使われ方をしていると言える。

宿題だと言われなくても自主的に取り組んでいる児童は約4割いるが、学級による差が大きい。担任の指示の違いが、児童の取り組み方を大きく左右していると言える。

- 3 保護者の声から(アンケート調査の結果)

家庭での使い方を尋ねたところ、「確認印を押している」家庭は9割弱であったが、子どもと一緒にやったり、学習したあとにチェックしたりしている家庭は6割弱であった。保護者のかかり方には大きな差が見られる。

『家庭学習ノート仙台』を使用することが負担になっているか聞いたところ、「かなり」と「やや」を合わせて3割が負担に感じていた。しかし、そのことについては95%が「必要な負担

である」と答えている。

このことから、子どもと一緒に学習する機会が大切だということは十分認識されていると言える。

- 4 担任の感想から

授業の復習に使うことが多く、使用することによって担任の負担はやや増えたというのが共通した意見である。

家庭からの反応についての担任の印象は、「ていねいなコメントの記入がある」から「確認の押印もない」まで様々であるが、学級によるばらつきが目立った。担任の働きかけにより、保護者の反応も違ってくるといった傾向がうかがえた。

Ⅳ 成果と課題

『家庭学習ノート仙台』の使用開始から3か月経過した7月時点での成果と課題は、次のとおりである。

- 1 成果
 - (1) 以前と比較して、家庭での学習習慣が身に付いてきたという保護者からの回答は約4割であり、使用による効果は上がりつつあると言える。
 - (2) 多少負担になっても家庭での学習習慣を身に付けさせたいという保護者の思いを、『家庭学習ノート仙台』を使用することにより、具現化していくことができた。
 - (3) この『家庭学習ノート仙台』の試みは、新聞やテレビ等でも大きく報道され、家庭での学習習慣の育成に学校でも真剣に取り組んでいるという姿を、広く発信することができた。
- 2 課題
 - (1) 家庭での学習習慣の定着の度合いは、学級による差が大きい。この試みの成果は、学級担任の意識と使い方にかかっていると言える。継続に当たって、担任の強い働きかけと更なる使用法の工夫が必要である。
 - (2) 今回、『家庭学習ノート仙台』を使用したのは3・5年生であった。この試みによる成果を、冊子の作成・使用ということにかかわらず、他の学年へも普及させていくことが大切である。